

## 「地方創生先行型」及び「地域消費喚起・生活支援型」交付金活用事業 の実績概要

### (1) 「地方創生先行型交付金」活用事業について

交付金を活用し、地方創生に向けた各種取り組み（若者の定住促進や特産品の販路拡大、多世代交流の推進に向けた地域振興拠点形成事業など）として、計9事業を実施。

（資料4-2一覧表参照）

《主な実績概要》

- 「小さな拠点での多世代交流促進事業」…「地域づくり協議会」の活動拠点の整備及び協議会の活動に対する交付金の交付

目標指標		目標指標値	実績値
地域づくり協議会の活動への参加者数（増加率）	西豆地区 （旧土肥南小）	+10%	<u>+111%</u> 【H26：336人⇒H27：710人】
	湯ヶ島地区	+10%	<u>+28%</u> 【H26：385人⇒H27：493人】

- 「地域資源掘り起し事業」…市内の地域資源を洗い出し、座標データ付の写真データとテキストデータが電子化され、様々な分野での活用が可能となった。

目標指標	目標指標値	実績値
地域資源データ登録数	3,000件	3,000件

- 「若者定住促進補助金事業」…若者世帯の住宅の新築・購入に対する補助金交付

目標指標	目標指標値	実績値
補助制度を利用した定住者	10人	13人

※ 交付金の対象は平成26年度の3月補正予算分のみであり、上記実績値は3月補正予算分のみ。平成26年度の年間の実績は、合計38件・142人となる。

### (2) 「地域消費喚起・生活支援型交付金」活用事業について

交付金を活用し、「わくわく旅行券事業」を実施。市内の宿泊者に対し、2人以上で利用の場合に1人につき2,500円（2人で5,000円）の市内で利用できる旅行券を発行。

《実績概要》

- 旅行券換金実績：38,301,500円（換金率：95.75%）
- 利用人数（推計）：15,320人（38,301,500円／2,500円）

⇒ 旅行券利用者へのアンケート集計結果からの推計によると、旅行券換金実績額38,301,500円に対し、旅行券事業による総消費額は約72,248,000円となった。

- ・また、観光関係者、旅行事業者、交通事業者等と連携した旅行券事業の実施により、観光交流客数の増加につながった。

【H26：3,423,472人⇒H27：3,748,897人、325,425人の増加で前年比109.5%】

- ・旅行券を利用した旅館でのサービス追加（伊勢海老のお造りなどの食事のグレードアップなど）により、旅行者の満足度アップ・リピーターの確保につながった。
- ・旅行券での観光施設の利用などにより、伊豆市での滞在時間が延長され、更なる消費拡大につながった。

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型） 活用事業一覧表

資料4-2

（各交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）の実績値等）

（単位：円）

交付金対象事業名	事業目的	事業概要	担当部署	実績額	実績額 事業経費内訳	本事業における重要業績評価指標（KPI）			本事業終了後における実績値		実績値を踏まえた事業の今後について「案」	
						指標	目標 指標値	目標 年月	実績値	事業成果	今後の 方針	今後の 方針
1 定住促進補助金 《H26年度 3月補正予算分》	人口減少が進行し、特に若者世帯の転出が顕著である中、人口の定住を確かなものにするため、若者世帯の市内への住宅新築、購入も対し補助金を交付し、若者世帯の定住を支援する。	夫婦いすれかが満40歳以下の世帯で、市内に住宅を新築または建売及び中古の住宅を購入した方に対し、100万円の補助金を交付（小学校就学前の者1人につき10万円を加算）	総合戦略課	5,300,000	・定住促進補助金 5,300,000 【新築(土地・建物) 1,000千円×5件=5,000千円 【小学校未就学児童加算分】 100千円×3人=300千円	住家定住補助を利用した定住者	10人	H27年 3月	13人	5件の定住促進補助金の申請があり、市外5人・市内8人の定住につながった。本制度により、市外からの若者世帯の定住が促進されるとともに、市外への人口流出を防ぐ効果的施策の一つとなっている。	更に発展させる	若者世帯の定住促進をさらに強化するため、補助対象を住宅購入費のみならず、賃貸住宅への家賃まで拡充。
2 販路拡大事業 《H27年度 繰越事業》	人口減少やコンビニエンスストア等に進出により、食品等を中心に、市内の製造小売業の廃業が著しく、経営者の高齢化も進んでいる。地理的に大消費地(首都圏)に近いことから、市内の食品を中心に、東京都内等の百貨店の催事に出展することにより、消費トレンドを収集するとともに、商品力を向上させ、百貨店と取引可能なレベルまで引き上げることを目標に販路拡大に向けた事業を実施する。	販路拡大に向け、下記3事業を実施 ① 催事出展支援補助事業 ・催事出展者に対し、出展経費の一部を補助。 (10,000円/日) ② 販路拡大視察研修 ③ 商品力向上指導者講座	観光商工課 DMO 推進室	724,030	・催事出展補助金 210,000 【10千円×7件×3店舗=210千円】 ・販路拡大視察研修 149,250 (バス借上料) 【149,250円×1回分=149,250円】 ・商品力向上指導講座 講師謝礼 364,780 【講座3回分=364,780円】	百貨店等への催事出展事業者数	30事業者	H28年 3月	3事業者	○ 催事出展補助金を活用し、市内3事業者が、伊勢丹相模原店において開催された「伊豆フェア」をに出展し、自社商品のPRや、他の出展者を見ることにより、商品の“見せかた”を学ぶとともに、販路拡大に向けて市外に出るというモチベーションを高めることが出来た。 ○ 伊勢丹新宿店及び展示会への視察を実施し、市内事業者や観光関係者など計18名が参加した。視察により、商品開発やパッケージデザインの知識取得やスキル向上につながった。 ○ 下記の3講座を実施し、商品力向上に向けた基礎知識や具体的なアドバイスを得ることなどにより、自社商品のフレッシュアップや魅力的なパッケージデザインの参考とすることが出来た。 ①「いいもの伝える」商品力アップ講座 ②実際の催事出展スペースでの現地講座 ③事後フォロー講座 (講師に自社商品のチェックをしてもらうなど)	事業の継続	DMO法人化を目指し、H28年4月1日に設立された「伊豆市産業振興協議会」の事業として、販路拡大に向けた事業を継続するとともに、商品力の上昇や「ブランド化」に向けた新たな企画に取り組んで行く。
3 地域資源掘り起し事業 《H27年度 繰越事業》	地域の特産品などにおける地域間競争が激しくなる中、消費者側の視点に立ち、消費トレンド等を取り入れた特産品の開発等に取り組んで行くため、先行して市内の地域資源の掘り起しを実施する。	市内地域資源を洗い出し、GPSデータを含んだ情報として整理収集し、特産品開発やシティープロモーション等に活用する。	観光商工課 DMO 推進室	11,260,000	・地域資源掘り起し業務委託料 11,260,000	地域資源データの洗い出し及び、データ登録数	3,000件	H28年 3月	3,000件	3,000件の地域資源を掘り起し、座標データ付の写真データとテキストデータが電子化され、様々な分野での活用が可能となった。	事業の継続	「伊豆市産業振興協議会」のデータベースとして活用するとともに、情報量をさらに増加させながら、情報を活用した情報発信や、特産品開発、観光ルート開発などに発展的な活用を図っていく。また、関係団体(商工会や観光協会)とのデータベースの共有化に向けたシステムも構築していく。
4 店舗リフォーム補助事業 《H27年度 繰越事業》	売上の減少や、高齢化及び後継者不足などにより廃業を考えていた事業者が、店舗の老朽化により廃業を決定するケースが多いため、廃業を防止し、事業継承を可能にすることを狙いとして、店舗の改修費用を補助する。	市内の商業事業者が、店舗の改修等を行う場合(市内の施行者に限る)、その経費の一部を補助する。 (工事費の20%、上限50万円)	観光商工課 DMO 推進室	2,000,000	・店舗リフォーム補助金 2,000,000 【500千円×4件=2,000千円】	店舗リフォーム数	10店舗	H28年 3月	4店舗	市内4店舗(駅前2・瓜生野1・湯ヶ島1)に対する店舗リフォームの実施により、商業事業者の売り上げ向上と住宅関連事業者の受注拡大につながり、地域経済の活性化の一助となった。また、店舗リフォームにより、まちの景観向上にもつなげることが出来た。	事業内容の見直し(改善)	現存の商店を対象としたリフォーム補助では、店主の高齢化等の要因もあり、申請件数が伸びなかったため、補助対象範囲を新規創業者まで拡大し、件数増加に向け、取り組みを強化していく。
5 小さな拠点での多世代交流推進事業① (土肥南小学校・体育館トイレ改修工事)【26年度分】 《H27年度 繰越事業》	地域コミュニティ機能や地域社会の活力の低下が大きな課題となっている中、新たな枠組で、地域住民自らが考え行動する組織を検討し、H26年度に「西豆地区地域づくり協議会」を発足。	「西豆地区地域づくり協議会」の活動拠点施設である小学校施設(旧土肥南小学校・体育館)のトイレ改修	社会教育課	3,722,760	・地域交流拠点(旧土肥南小学校、体育館)のトイレ改修費 3,722,760	地域づくり協議会の活動の多様化による多世代交流等の参加者数(増加率)	10%	H28年 3月	+111% (H26) 336人 ↓ (H27) 710人	下記事業の実施に対し、延べ710人が参加者し、多世代交流が図られた。 《H27年度 実施事業》 ○ 交流促進事業 ・交流拠点づくり、多世代交流イベント、あさりの放流 ○ 防災・防犯事業 ・防災マニュアル作成、避難路や転落危険箇所の整備、避難経路表示の整備 ○ 環境美化事業 ・国道沿いの美化、遊休農地花いっぱい事業 ○ 広報事業 ・広報誌の発行	事業の継続	各集落中心拠点における生活機能・コミュニティ機能の維持や地域の賑わい創生に向けた取り組みを継続していく。
6 小さな拠点での多世代交流推進事業① (西豆地区地域づくり協議会への地域づくり交付金)【27年度分】	協議会の活動に対し、市単独で5,000千円を上限とする交付金を交付し活動を支援している。この活動を拡充し、安定的なものにするため、併せて、廃校となった小学校施設の改修を行うことにより、多世代交流等を効果的に推進する。	「西豆地区地域づくり協議会」の活動費への補助	総合戦略課	4,554,404	・西豆地区地域づくり協議会活動費補助 4,554,404	地域づくり協議会の活動の多様化による多世代交流等の参加者数(増加率)	10%	H28年 3月	+28% (H26) 385人 ↓ (H27) 493人	下記事業の実施に対し、延べ493人が参加者し、多世代交流が図られた。 《H27年度 実施事業》 ○ 総合事業 ・立ち寄りサロン、地域づくり学習会等 ○ 環境整備事業 ・富士の見える遊歩道整備、木材資源の活用 ○ 文学歴史事業 ・手作り展示サロン、地域の宝発見計画 ○ 生活安心事業 ・独居老人支援事業 ○ 地域活性化事業 ・木工教室、休耕田ゆうづつ計画	事業の継続	各集落中心拠点における生活機能・コミュニティ機能の維持や地域の賑わい創生に向けた取り組みを継続していく。
7 小さな拠点での多世代交流推進事業② (旧湯ヶ島小学校・校舎改修工事)【26年度分】 《H27年度 繰越事業》	地域コミュニティ機能や地域社会の活力の低下が大きな課題となっている中、新たな枠組で、地域住民自らが考え行動する組織を検討し、H26年度に「湯ヶ島地区地域づくり協議会」を発足。	「湯ヶ島地区地域づくり協議会」の活動拠点施設である小学校施設(旧湯ヶ島小学校・校舎)の交流スペースの改修。	財務課	4,177,729	・地域交流拠点(旧湯ヶ島小学校)交流スペースの改修費 4,177,729	地域づくり協議会の活動の多様化による多世代交流等の参加者数(増加率)	10%	H28年 3月	+28% (H26) 385人 ↓ (H27) 493人	下記事業の実施に対し、延べ493人が参加者し、多世代交流が図られた。 《H27年度 実施事業》 ○ 総合事業 ・立ち寄りサロン、地域づくり学習会等 ○ 環境整備事業 ・富士の見える遊歩道整備、木材資源の活用 ○ 文学歴史事業 ・手作り展示サロン、地域の宝発見計画 ○ 生活安心事業 ・独居老人支援事業 ○ 地域活性化事業 ・木工教室、休耕田ゆうづつ計画	事業の継続	各集落中心拠点における生活機能・コミュニティ機能の維持や地域の賑わい創生に向けた取り組みを継続していく。
8 小さな拠点での多世代交流推進事業② (湯ヶ島地区地域づくり協議会への地域づくり交付金)【27年度分】	協議会の活動に対し、市単独で5,000千円を上限とする交付金を交付し活動を支援している。この活動を拡充し、安定的なものにするため、併せて、廃校となった小学校施設の改修を行うことにより、多世代交流等を効果的に推進する。	「湯ヶ島地区地域づくり協議会」の活動費への補助	総合戦略課	2,477,729	・湯ヶ島地区地域づくり協議会活動費補助 2,477,729	地域づくり協議会の活動の多様化による多世代交流等の参加者数(増加率)	10%	H28年 3月	+28% (H26) 385人 ↓ (H27) 493人	下記事業の実施に対し、延べ493人が参加者し、多世代交流が図られた。 《H27年度 実施事業》 ○ 総合事業 ・立ち寄りサロン、地域づくり学習会等 ○ 環境整備事業 ・富士の見える遊歩道整備、木材資源の活用 ○ 文学歴史事業 ・手作り展示サロン、地域の宝発見計画 ○ 生活安心事業 ・独居老人支援事業 ○ 地域活性化事業 ・木工教室、休耕田ゆうづつ計画	事業の継続	各集落中心拠点における生活機能・コミュニティ機能の維持や地域の賑わい創生に向けた取り組みを継続していく。
9 伊豆市総合戦略・アクションプラン策定業務 《H27年度 繰越事業》	「伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中から、実施に結びつく効果的なアクションプランを抽出し、計画概要及び基本計画を作成するとともに、市の将来像としての「伊豆市ランドデザイン」の基礎資料を作成する。	地方創生アクションプランと伊豆市ランドデザインの基礎資料の作成。	総合戦略課	9,612,000	・総合戦略アクションプラン策定業務委託料 9,612,000	—	—	H28年 3月	—	・修善寺、天城湯ヶ島、中伊豆、土肥地区でワークショップを開催(各地区3回、参加者数：延べ226人)し、市民の方から収集させていただいた意見を基に、それぞれの地域の将来像や地区の特性に応じたプロジェクトを整理し、4地区アクションプランとしてまとめた。また、地区ごとに収集した意見については、伊豆市ランドデザインの中の各地域の主な取組みの中にも反映することができた。	更に発展させる	地方創生推進交付金を活用し、アクションプランの実現に向けた活動支援を行う。
実績額合計				43,828,652								

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地域消費喚起・生活支援型）活用事業一覧表  
 （交付対象事業の実績・事業成果等）

（単位：円）

交付金対象事業名	事業目的	事業概要	事業実施主体	販売日・販売窓口等	交付金実績額	発行・換金実績	アンケート集計結果による推計総消費額	事業成果	消費内容・消費喚起特性に関する分析
1 わくわく旅行券事業	域外からの誘客と市内の消費喚起を図る。	<p>① 静岡県実施の店頭販売、ツアー商品の宿泊補助利用者のうち、伊豆市内の宿泊者に対し、2人以上で利用の場合に1人につき2,500円（2人で5,000円）の伊豆市内で利用できる旅行券を発行。                      ※ 県の補助が3,000円、市の旅行券が2,500円となり助成額の計が5,500円となることから、11,000円以上の旅行ツアー商品を助成対象とした。</p> <p>② 市が実施する企画商品で、2人以上で宿泊の場合に1人につき2,500円（2人で5,000円）の市内で利用できる旅行券を発行。旅行券の利用先は、公共交通機関、市内観光施設、ゴルフ場、飲食店、土産物店等で宿泊費には助成しない。                      ※ 市の助成が2,500円となることから、5,000円以上の旅行ツアー商品を助成対象とした。</p> <p>☆ 割引率：50%</p>	伊豆市観光協会（委託）	<p>○ 販売日 平成27年7月24日 ～ 平成28年2月29日</p> <p>○ 販売窓口 ・観光協会 ・JTB窓口 （インターネット予約でも対応）</p> <p>○ 利用期間 平成27年10月1日 ～ 平成28年2月29日</p>	○ 48,301,500円	<p>○ 発行実績 40,000,000円</p> <p>○ 換金実績 38,301,500円 （換金率：95.75%）</p> <p>○ 利用人数（推計） 15,320人 〔38,301,500円／2,500円〕</p>	<p>☆ アンケート集計結果から推計される旅行券事業による消費総額 約 72,248,000円 ※ 別添資料4-4参照</p>	<p>○ 観光関係者・旅行事業者・交通事業者等と連携した旅行券の発行により、観光交流客数の増加につながった。</p> <p>〔 H26：3,423,472人 H27：3,748,897人 ☆ 325,425人の増加で前年比109.5% 〕</p> <p>○ 旅行券を利用した旅館でのサービスの追加（伊勢海老のお造りなどの食事のグレードアップ）などにより、旅行者の満足度アップ、リピーターの確保につながった。</p> <p>○ 旅行券での観光施設の利用により、伊豆市での滞在時間が延長されることにより、更なる消費拡大につながった。</p>	<p>① 消費の内容に関する分析 ・家族旅行が最も多く、1世帯2～3人が多い。 ・11月の紅葉シーズン、2月の梅シーズンの宿泊が多い。</p> <p>② 利用者属性 ・性別：団体旅行は男性、友人等との旅行は女性が多い。 ・年齢層：年齢が上に行くほど多く、特に60代が最も多い。 ・夫婦2人で宿泊する家族旅行の傾向が多い。 ・伊豆市以外の県内からが一番多く、続いて東京都、神奈川県、千葉県と首都圏からの利用が多い</p> <p>③ 消費喚起特性に関する分析 ・宿泊施設での利用が15,385,000円（全体の40%） ・10月～2月の宿泊者数が前年比102%となり、2%の増加。</p>

# 旅行券利用者へのアンケート調査集計表

資料4-4

○ アンケート回答者数 2,899人  
 ○ 旅行券利用人数(推計) 15,320人 ⇒ ☆ 回答率 約18.9%

(単位：円)

	目的	『旅行券がなくても旅行を実施していた』 と回答した人数・消費額			『旅行券がなかったら旅行を実施していなかった』 と回答した人数・消費額		
		人数	旅行券での支払い 金額	追加・旅行券以外の 支出金額(現金)	人数	旅行券での支払い 金額	追加・旅行券以外の 支出金額(現金)
男性	家族旅行	129	342,500	4,810,000	70	175,000	1,187,000
	友人・知人との旅行	85	157,500	4,255,000	75	187,500	888,000
	その他	1,245	3,090,000	25,738,000	97	242,500	1,207,000
	合計	1,459	3,590,000	34,803,000	242	605,000	3,282,000
女性	家族旅行	141	370,000	4,958,200	92	230,000	1,510,000
	友人・知人との旅行	77	170,000	3,013,000	90	225,000	1,275,000
	その他	765	1,877,500	14,554,000	33	82,500	438,000
	合計	983	2,417,500	22,525,200	215	537,500	3,223,000
合計		2,442	6,007,500	57,328,200	457	1,142,500	6,505,000

①

②

③

○ 旅行券事業による消費総額 (①+②+③)  
 【※アンケート回答者のみ】

13,655,000円



☆ アンケート回答率から推計される  
 旅行券事業による消費総額  
 【※利用者全体】

約 72,248,000円

$$\left[ \begin{array}{l} 13,655,000円 \times 100 / 18.9\% \\ \div 72,248,000円 \end{array} \right]$$